

大阪市立総合医療センター市民医学講座

知っ得！ なっ得！

医学情報

2018. **9.8** Sat
14:00~16:00

味と匂いのよもやま話

～おいしく食べるために～

耳鼻咽喉科部長 愛場 庸雅

味やにおいがわからない、食事がおいしくない、と言って病院を受診される方が増えています。なぜなのでしょう。食事がおいしいことは、人生の大きな楽しみの一つであり、しかも日常のことですので、その感覚がおかしくなることは非常につらいことです。

おいしい食事とはどんなものなのでしょう。一流シェフの作った高級料理、それとも手作りのおふくろの味？ 考えてみると、おいしさには、味と匂いだけではなく様々な要因があることに気づきます。あなたが「おいしくない」のはどこに原因があるのでしょうか？

講義では、味と匂いを感じるしくみ、味や匂いがわからなくなる原因と対策などを解説するとともに、その背景にある社会的問題についても考えてみたいと思います。

かゆみ治療最前線

～じんましん・アトピー性皮膚炎の最新治療～

皮膚科部長 深井 和吉

「かゆみ」というのは皮膚に特有の感覚です。いわゆる「かゆみ止め」の外用剤や内服薬に加えて、最近では新しい治療法が選択可能となってきました。通常の治療ではコントロールできない「難治性じんま疹」には、じんま疹発症に関わるIgEというタンパク質を抑える注射薬が登場しています。

また、免疫抑制剤の内服治療でもよくなるような「重症アトピー性皮膚炎」については、アトピー体質の免疫バランスを調節することのできる注射薬が今年4月より認可されています。かゆみはどのように生じるのか、かゆみとうまくつきあっていくコツについてお話するとともに、このような最新治療法について解説いたします。

難聴・めまい

～「生活の質」を向上するために～

耳鼻咽喉科医長 岡崎 鈴代

「聴こえ」は、人とのコミュニケーションに無くてはならないものです。難聴は、鼓膜の穴(穿孔)、鼓膜の奥の水(滲出性中耳炎)、真珠腫性中耳炎などの、音を伝える構造の異常で起こる「伝音難聴」と、加齢性難聴、遺伝性難聴などの音を感じる器官の異常で起こる「感音難聴」に分類されます。伝音難聴は手術で聴力を改善できる可能性があり、感音難聴は補聴器や人工内耳でより良く聴こえるようになる可能性があります。より良い「聴こえ」のために、耳鼻咽喉科の有効な利用法をご紹介します。

めまいがあつては外出もままならず、「生活の質」が下がってしまいます。めまいの原因は様々ですが、代表的なめまいの原因と、自宅でできるリハビリをご紹介します。

皮膚がんについて

～ほくろとがんの違いは？～

皮膚科副部長 前川 直輝

皮膚がんは、内臓に発生する癌と異なり、目に見える部位に発生するため、早期での発見が可能です。早期に皮膚科医のもとで適切な診断・治療を受けることにより、完治する皮膚がんも数多くあります。ほくろのようにみえても、皮膚がんの初期の場合もあります。

また、湿疹のようにみえる場合もあります。その場合は、膏薬治療を行っても、全く変わらない、あるいは大きくなります。たかが皮膚病と思って軽視していると、皮膚がんであった場合は、最後には他の臓器のがんと同様、リンパ節や内臓に転移して死に至ります。皮膚に気になる病変ができた場合は早期に皮膚科医に受診することをお勧めします。今回、代表的な皮膚がんを説明させていただきます。